

房総丘陵におけるアワチドリ (ラン科) 生育地の確認

尾崎煙雄*・西内李佳・斉藤明子・樽宗一郎

千葉県立中央博物館
〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2
* E-mail: ozakik@chiba-muse.or.jp

(2021年9月30日投稿；11月19日改訂；11月23日受理)

要 旨 著者らは2021年6月に房総丘陵においてアワチドリ (ラン科) の生育地を確認した。アワチドリはウチョウランの房総半島固有変種であり、園芸目的の乱獲により激減し絶滅が危惧されている。過去半世紀の間に標本等によるアワチドリの確実な生育の記録はごくわずかしがなく、今回の確認はアワチドリ自生地の貴重な記録である。

キーワード：アワチドリ，ラン，絶滅危惧種，固有種，房総丘陵

アワチドリ *Hemipilia graminifolia* (Rchb.f.) Y.Tang, H.Peng et T.Yukawa var. *suzukiana* (Ohwi) Y.Tang, H.Peng et T.Yukawa はウチョウラン *Hemipilia graminifolia* (Rchb. f.) Y. Tang, H. Peng et T. Yukawa の変種で、房総半島に固有のラン科植物である。母変種ウチョウランと比較して、花数が多い、距が細く長いなどの違いがあるところから大井 (1969) によって変種 *Orchis graminifolia* (Reichb. f.) Tang et Wang var. *suzukiana* Ohwi として記載された。なお、大場 (1996) はアワチドリの学名に、*Ponerorchis graminifolia* (Reichb. f.) Tang et Wang var. *suzukiana* (Ohwi) Soó をあてているが、ここではアワチドリを含む東アジアのチドリソウ亜科の系統と分類を整理した Tang *et al.* (2015) に従った。

千葉県レッドデータブック2009年改訂版ではアワチドリについて、「かつては房総丘陵南部に多くの産地が知られていたが、観賞用の採取のために激減し、現在確実な産地は知られていない」と記述されている (大場, 2009)。これは昭和30~40年代に始まったといわれるいわゆる“アワチドリブーム”に伴う乱獲の影響であり、千葉県レッドデータブック1999年版 (千葉県環境生活部自然保護課編, 1999) から最新の千葉県レッドリスト2017年版 (千葉県環境生活部自然保護課編, 2017) まで、一貫して「最重要保護生物」に指定されている。環境省のレッドリスト (環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編, 2020) でも「絶滅危惧IA類」に指定されており、過去20年以上にわたって絶滅の危険性が高い植物と認識されている。

調査地

著者らは希少植物と昆虫の調査を目的として、2021年

6月21日に房総丘陵のある山系を探索した。盗掘の防止のため、ここでは調査地の詳細は伏せることとする。

結果

調査地において著者らはアワチドリの開花個体が複数生育している場所を確認した。この生育地は北西向きの堆積岩の岩壁で、比高はおよそ10 m、傾斜はほぼ垂直であった。生育地の標高は187 mであった。岩壁の横幅5 mほどの範囲に開花個体が15株以上あり、目測による草丈は7~15 cm、花数は4~10個、茎葉は2~4枚であった。岩壁上部のものは他の植物の間に見え隠れしていたので、さらに多くの個体が生育していた可能性がある。写真 (1, 2) による記録にとどめ、標本は採集しなかった。周辺にはキリンソウ *Phedimus aizoon* (L.) 't Hart var. *floribundus* (Nakai) H. Ohba, ヒキヨモギ *Siphonostegia chinensis* Benth. ex Hook. et Arn. といった他の希少植物も見られた。

なお、今回のアワチドリ生育地の確認を担保するため、このときに撮影した写真を緯度経度を含む詳細な撮影地データと共に千葉県立博物館資料データベースに画像として登録した。このデータは「千葉県立中央博物館の植物・菌類資料管理班が、希少種保護について十分に理解があり信頼できると認められた者に対してのみ生育地情報を開示する」との条件を付した上で原則として非公開とする。

考察

アワチドリの標本は千葉県立中央博物館に8点収蔵されている。また東京大学大学院農学生命科学研究科附属



図1. アワチドリ。草丈15 cmほどの大型株。2021年6月21日撮影。



図2. アワチドリ。草丈7 cmほどの小型株。2021年6月21日撮影。

千葉演習林（以下、千葉演習林）の森林博物資料館に2点収蔵されている（久本ら, 2017）。さらにサイエンスミュージアムネットの自然史標本情報データベースによれば、国立科学博物館に4点が収蔵されている。

千葉演習林の2点は1930年と1932年の採集、国立科学博物館の4点はタイプ標本を含み1955～1968年の採集（1点は採集年不明）であり、産地はいずれも房総丘陵である。千葉県立中央博物館収蔵の8点のうち2点は房総丘陵以外の植栽株で、残り6点のうち5点は1937～1963年の間にいずれも房総丘陵で採集されたものであり、あと1点は1984年に房総丘陵の個人宅裏の崖地で採集されたものである。



図3. アワチドリ。2002年6月19日撮影。

上記の通り、採集年が明らかで房総丘陵で採集された自生と思われるアワチドリの標本は1点を除いて1930～1963年のものである。これらはすべて大井（1969）がウチョウランの変種としてアワチドリを記載する以前の採集品であり、採集当時はウチョウランとされていたものである。つまり、“アワチドリブーム”に伴って自生株が乱獲され、個体数が激減して以降の標本記録がほとんどないことがわかる。

千葉県立中央博物館所蔵の1984年採集の標本については、この崖地に生育するアワチドリは自生であることを示唆する地主の証言（藤平, 1986）があることから、自生株である可能性が高い。これが自生株であれば、個体数激減後の貴重な標本記録である。また、著者の一人の尾崎は2002年6月19日に房総丘陵の崖地でアワチドリ1株を確認し、写真（図3）を撮影した（未発表）。この時は周囲にこの1株しか見つからなかったため標本採集はしていない。このように、房総丘陵のアワチドリ個体群は絶滅してはいないことを示す記録がわずかながら残されている。

一方、インターネットには房総丘陵で撮影されたアワチドリの写真を公開しているブログ等のウェブページがいくつも見つかる。著者が調べた範囲では、4つのウェブサイトで延べ12ページが公開されている。これらのウェブページのアワチドリ撮影年は2013年以降2021年まで2019年を除く毎年である。これらすべての写真は房総半島で撮影したものと書かれているが、いずれも生育地が特定できるような記述はない（発信者が盗掘防止の観点から自制したものと推測される）。これらインターネット上の写真がすべて自生株であるという確証はない。しかし、少なくとも2013年以降はほぼ毎年房総丘陵でアワチドリが記録されている事実は、大場（2009）が「本来の生育地は急峻な崖で、通常は人為が及ばぬ場所であるから、採取行為を停止すれば個体群が復活する可能性が高い」と指摘しているとおり、“アワチドリブーム”が下火になった近年は盗掘が減り、アワチドリの個体群が復活しつつあることの傍証と見なすことができる。しかし、

今後のレッドリストの見直し等、アワチドリ個体群の科学的な保全に資するためには、引用可能な報文として記録しておくことが重要である。

今回確認されたこの生育地は本種の本래のハビタートと見なすことのできる立地であり、生育株数も多いため、安定的に維持されうる集団と考えられる。今後、この生育地を継続的に観察し、集団が安定していることが見極められれば、標本の採集を含めて詳細な記録を残す予定である。

引用文献

- 千葉県環境生活部自然保護課編. 1999. 千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—植物編, 435 pp. 千葉県環境生活部自然保護課, 千葉.
- 千葉県環境生活部自然保護課編. 2017. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト 植物・菌類編<2017年改訂版>, 30 pp. 千葉県環境生活部自然保護課, 千葉.
- 久本洋子・三次充和・梁瀬桐子・大石 諭・天野 誠. 2017. 千葉演習林森林博物館所蔵の1922~1990年に採集された維管束植物標本リスト. 演習林 (東大) 59: 1-53.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編. 2020. 環境省レッドリスト2020. 131 pp. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京.
- 大場達之. 1996. 第5節 固有な植物. 所収 財団法人千葉県史料研究財団 (編), 千葉県の自然誌 本編1 千葉県の自然 県史シリーズ40, pp. 311-314. 千葉県, 千葉.
- 大場達之. 2009. アワチドリ. 所収 千葉県レッドデータブック改訂委員会(編), 千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—植物・菌類編 2009年改訂版, p. 158. 千葉県環境生活部自然保護課, 千葉.
- 大井次三郎. 1969. アワチドリ. 植物研究雑誌 44(2): 47.
- Tang Y., T. Yukawa, R. M Bateman, H. Jiang & H. Peng. 2015. Phylogeny and classification of the East Asian *Amitostigma* alliance (Orchidaceae: Orchideae) based on six DNA markers. BMC Evol. Biol. 15: 96. <https://doi.org/10.1186/s12862-015-0376-3>
- 藤平量郎. 1986. 房総の植物. 178 pp. うらべ書房, 木更津.

Rediscovery of an Endangered Orchid, *Hemipilia graminifolia* var. *suzukiana*, in the Boso Hills, Chiba, Japan

Kemrio Ozaki*, Rika Nishiuchi, Akiko Saito and Sôichirô Taru

Natural History Museum and Institute, Chiba
955-2 Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba 260-8682, Japan

* Email: ozakik@chiba-muse.or.jp

Hemipilia graminifolia var. *suzukiana*, is endemic to the Boso Peninsula, Chiba, Japan. This orchid has been severely endangered due to the overcollection for hobby gardeners since the latter part of the 20th century, and few evidences of the living wild plants were known for more than a half century. We discovered a wild population of more than 15 plants of this orchid in the Boso Hills in June, 2021.